

(部分は外部評価との共通評価項目です)

(北の家ユニット)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念はあるものの、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えてく理念ではない。	○	職員一同、これまでの理念を見直し。住み慣れた地域で安心した暮らし、ご利用者様の今までのつながりを継続し、支えていけるような理念を作り上げたいと思っている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りで、ご利用者様の今ある問題を話し合い、職員のケアに、ずれが生じないように話し合っている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営会議で、GHの特徴や外部評価など、どのような活動をしているか、どのような方々が利用しているか、理解していただけるよう説明している。	○	運営会議だけではなく、ご利用者様に面会にこられた友人など、気軽に話しかけ、理解していただけるように努力している。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の人に挨拶や話をしている。また、法人全体のイベントなどにも参加していただけるよう、ポスターなどで呼びかけているが、地域密着までとはいえない、	○	場所がら気軽に立ち寄ってもらえるには難しく、こちら側から出向くことが多いため、少しずつ範囲を広げられるよう努力したい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生や中学生が、ボランティアとして活動しにきてくれるなど、地域との交流がある。	○	今後、地域住民の一員として、地域活動の情報を集め、参加する接点を持ちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ふれあいD.Sに同行させて頂き、認知症の方に対する接し方など、気軽に相談していただけるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員とまではいかないが、話し合い、サービスの向上に努めている。外部評価の結果は、職員会議などで話し合い、改善に向けて話し合っている。	○	自己評価することがケアの基本につながると考え、職員全員で評価を検証していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で取り上げられた検討事項や懸案事項についてその経過を報告しあい、一つひとつ積み上げていくようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は事業の推進においても、重要な存在だと思うものの、現時点では何も出来ていないのが、現状である。	○	管理者とも相談し、今後どのように進めていけばよいのか、話し合いたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、管理者またはご家族が対応するため、他の職員は制度の内容を理解していない。必要などき支援できる体制が万全とはいえない。	○	今後、勉強会等で職員への理解を深めたいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加した職員が理解した上で、職員会議などで報告してもらい、他の職員に理解を促している。	○	介護はストレスが溜まる。正常勤務環境を整えるため、夜勤体制の時間帯を検討中である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明をしている。特に重度化やみとりについての疑問点や、医療連携体制について説明をし、同意を得るようにしている。	医療連携体制・看取りなどに対し、説明会を行った。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。不安や、意見などは特定の職員の中に埋もれないように、ミーティングで話し合うようにしている。	苦情処理委員会を設置し外部委員を発令し、意見を述べる機会を設けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態等で変わりがあった際には、随時ご家族様へ電話連絡している。面会時にも日々の様子について報告し、話し合いの場を設けている。	預かり金取扱規定に基づき利用者の金銭は管理している。月に一回明細を送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、手紙や面会時に問いかけ、意見や思いを言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。家族会を設立し、家族同士の集まりの場にて意見を出してもらえるようにしていきたい。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開き、職員の意見などを聞く機会をもうけている。	法人全体で個人面談を年一回実施し、意見交換を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて、柔軟に対応できるように職員の配置を考えている。	勤務体制でフリー勤務者を設けて対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者様、ご家族様への信頼関係を築くためにも、今まで慣れ親しんできた職員が対応することは、重要だと考えております。異動や離職がやむおえない場合も、時期や引継ぎの面で、最善の努力をしている。	馴染みの関係を図るため、極力人事異動は控えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所以外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるように、努力している。研修報告は、毎月の職員会議で発表してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>他の職員が研修報告を気軽に閲覧できるようにファイリングしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH定例会に参加をし、他の事業所との交流を通して、事例検討をする機会がある。事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。</p>	<p>○</p> <p>定例会に参加する職員の人数を増やし、職員全体でサービスの向上に努めたいとかがえている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中でも気分転換できるように、常にコミュニケーションをとり、職員同士の人間関係を把握したりするように努めている。また、職場での交流会を開催し、ストレスの軽減に努めている。</p>	<p>○</p> <p>職場環境づくりを行いコミュニケーションをとるように、職員同士が会話を多くもてるようにする。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格獲得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で本人の生活状態の把握に努め、困っていること、求めていること、不安なことを理解しようと工夫している。</p>	<p>○</p> <p>本人だけではなく、ご家族様の困っていること、不安なことを理解しようと、今後も努力をしたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談にこられるまでのご家族の苦労や経緯について、把握できるよう、ゆっくり聞くようにしている。話しを聞くことで、少しでもご家族様の不安を取り除き、次の段階の相談につなげている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援ができるように、努力している。また、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り、柔軟な対応を行い、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。	○	地域包括支援センターとのつながりを持ち、今以上に柔軟な対応を行いたいとおもっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむ終えず、すぐにサービスの利用となった場合、ご家族やそれまでかかわった関係者に来てもらうなどして、ご本人が安心して生活できるように努力している。	○	入居までに時間をかけ、気軽に遊びに来ていただいたり、遊びに行けるような信頼関係を作りたいと考えていえる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様の出来る事、出来ない事を職員が把握することはもちろんのこと、支援する側、される側にとられないように、お互い協力しながら支えあう関係を築けるように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の様子や、職員の思いを伝えることで、家族と職員の思いが、本人を支えていくための協力関係が築けるのではないかと考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と過ごすことを勧めたり、行事に家族へ案内を出し、共に参加をしてより良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けているご利用者様や、行きつけのお店に出かけるご利用者様がおり、一人ひとりの生活習慣を出来る限り尊重している。	○	ご利用者様全員が今までの関係を継続しているわけではないので、出来る限り支援をしつづけ、皆様が安心して暮らせるように努力したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、皆様が楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面作りをするなど、ご利用者様同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となり支援している。	○	団体行動が苦手なご利用者様もいらっしゃるため、利用者同士の関係性についての情報連携は大切なことである。すべての職員が共有できるように、ノートに記入をしたり、申し送りで話し合ったりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも、ご利用者様と職員が遊びにいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で声かけをし、思いや希望を把握するよう努めている。また、ご家族様からも情報を得て、職員間で把握するため、話し合いの場を作っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、自宅を訪れて生活環境を理解し、ご家族様からも、どんな生活をしてきたのか日々聞いている。日常の中で、ご本人様からの言葉や表情からも読み取り、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の言動からご本人様を把握している。ご本人様の出来ることを理解し、その人に寄り添ったケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様には、日常の中で意見や希望を聞き、取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画を見直し、ご本人様やご家族様の意見や希望を聞いている。状態に変化みられた際は、ご本人様やご家族様、主治医等の関係者と話し合いの場を設け、見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて、ケア内容や工夫等を記入し、情報を共有している。その内容を元に、介護計画を見直し改善している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、ここの満足度を高めるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者様が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、なじみの方等と、自由に会える機会を作っている。地域のボランティアにも働きかけ協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者様の希望や状況に応じて、訪問理容サービスを利用してもらっている。体操やレクリエーション等、近くのデイサービスへ遊びに行ったりもする。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係を築いていく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族様と協力している。また、訪問診療に来てもらっているケースもあり、複数の医療機関と関係を密にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々のかかわり方を、職員が互いに注意しあい、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来るよう努力している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ご利用者様にあわせて声をかけ、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(食べたい物、飲みたい物、する、しない等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりのペースにあわせ、その日、そのときのご利用者様の気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的にご利用者様の意向で決めている。職員は見守りや支援が必要ときに手伝っている。自己決定が難しいご利用者様に対しては、職員と一緒に考えて、ご利用者様の気持ちに沿った支援をするよう心がけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは、基本的に職員とご利用者様と相談しながら決めるようしている。また、片付けなどもご利用者様にも手伝っていただき、職員とご利用者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員はご利用者様が何が好きかを出来るだけ把握できるよう、コミュニケーションをとるよう努力している。また、お酒が好きなご利用者様と共に、好みのお酒を買いに行ったり、晩酌などで楽しめるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。また、排泄チェック表を使用し、尿意のないご利用者様に対しても時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、ご利用者様一人ひとりの希望する時間に入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動(体操や散歩など)促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息ができるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野でご利用者様一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、「ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも、外出時は自分で払っていただけるようお金を手渡すなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を感じてもらい、心身の生活につながる様に、日常的に散歩、買い物、ドライブなどに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者様が「あそこに行きたい」など意見が出された時には、行事の内容に取り入れたりし、実現するための方策を職員同士で検討し、支援につなげている。また、職員の勤務を調整などをしながら、出来るだけ、出かけられるように努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に家族と相談し、「電話をかけたい」との訴え時、掛けてもよいか話し合う。また、電話の話し声が他のご利用者様に聞こえないよう、中央の事務室にて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけている。仕事帰りやご家族が都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるよう努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に行った職員の研修報告で伝えていただき、職員の共有意識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けてしまう時間帯がある。完全に日中は玄関に鍵をかけないように職員の考え方、勤務体制を検討中である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間後とにご利用者様の様子を確認すると共に、起きた時にすぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく、ご利用者の状況変化によっては注意を促していくケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合は、速やかに事故報告書を作成し、事故の原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		事故防止マニュアルを作成して対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急手当の勉強会に参加していない。夜勤時の緊急対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。	○	全ての職員が、応急手当の勉強会が行えるよう、検討中である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を経て避難訓練を行っている。	○	訓練は年二回以上実施したいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、外部の刺激がご利用者様の表情を明るくし、行動の障害を少なくすることを入居前の相談時に説明し、理解していただけよう努力している。	○	安全安心は基本であるが、生活にメリハリをつけるためにも細心の注意を払いながら行動範囲を広げる支援をしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子などの変化が見られたときは、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけ、訪問看護に報告している。状況により、医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をファイリングし、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は、本人に手渡し、または介助にて、服用していただいている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通を促す食材や、水分補給を中心におこなっている。また、散歩などで体を動かす機会を設け自然排便できるように取り組んでいる。便通が困難な場合は、本人の状態を考え、かかりつけ医に相談することになっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、レベルに応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は入れ歯の洗浄をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを毎日記録し、職員が共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対し、情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努力している。また、ご利用者及びご家族様に同意をいただき、職員と共に、インフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルをしようする等、予防も徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩酸性水にて、消毒している。調理器具や食器は毎回消毒し、衛生管理を行うよう努めている。食材については、新鮮で安全な食材を使用するため、毎日近所の八百屋に配達していただく。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	GHへ続く道端に花をうえたり、看板を立てたり、近所の人が立ち寄りやすいように、努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊けるにおいなど、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央に、談話室を設け、居眠りをしたり、各居室前のいすで、過ごされたりと、一人で、過ごしたり、仲のよい利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのタンスや仏壇など、以前の生活で使用していたものを置いている。居心地のよい部屋に配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に空気の入れ替えをし換気に努めている。入居者様の発汗や冷えに気をつけて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所や流しの高さ、テーブルの高さなど入居者の使いやすい環境に整え自立を意識した工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者様にとって、「わかりやすい環境とは？」を常に考え、状況によって環境の整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑と一緒に農作業や草取りをしている。収穫を楽しみにしており、畑仕事について、ご利用者様から教えて頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)